

“ OPEN DOOR な祈りの場 ”

— 「教会の縁側」としての聖堂ロビーをつくる

私たちは、特に大きな床面積を必要とする『聖堂フロア』を2階に設定します。そこは、広くフラットな身廊／会衆席を中央に、正面祭壇（内陣）、小聖堂（泣き部屋）告解室、香部屋を一体的に配置する「吹き抜け大空間（大気積）の聖堂」と、それを囲む「教会の縁側としてのガラス張りの聖堂ロビー」、「外の十字架と階段広場、公園／街に大きく開くバルコニー」からなる『明るい“OPEN DOORな祈りの場” = 「聖なるフロア」』です。

祭壇／内陣

- ・会衆席よりわずかにレベルを上げた祭壇／内陣
- ・十分な間口／奥行／高さがあり、ニュートラルで端正なデザイン
- ・公園の緑が見え、明るい光が差し込む

香部屋

- ・コンパクトな準備室

道行15留

告解室

- ・対話形式／カウンセリング形式が転換できる構造

身廊／会衆席

- ・定常配置；半固定長椅子200席
- ・特別配置；可動椅子+100席

聖堂ロビー

- ・信徒や町の人々に開かれた交流スペース
- ・聖堂会衆席の拡張スペース
- ・ゆりカフェ／教会の縁側

十字架塔

- ・改築前の教会のシンボルを継承し、街角に高く掲げなおす

階段広場／緩やかな階段ブリッジ

- ・入退堂の際の集中と高揚、交わり・くつろぎの場

オルガン／聖歌隊スペース

小聖堂／泣き部屋

- ・ガラス建具の開閉により聖堂と一体化

バルコニー

- ・公園の緑や街／世界／未来に開かれた屋根付き開放空間
- ・ミサ前後の交わりとくつろぎの場
- ・広場での屋外ミサの祭壇（お立ち台）

OPEN DOOR

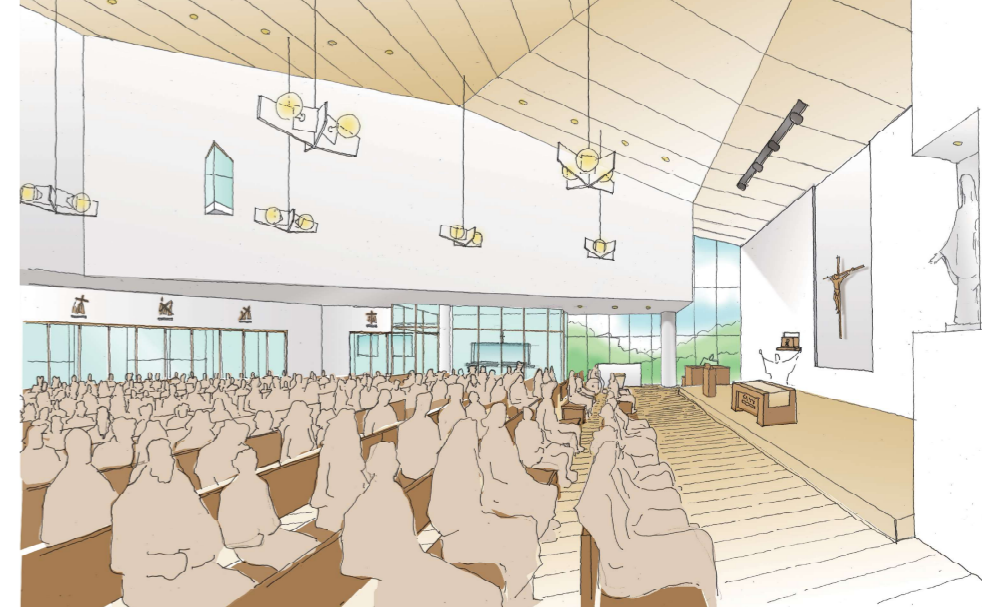
「モンテッソーリ教育空間の構造」を示す keyword。

保育室の扉が常に開かれていることにより、子どもの自主性が尊重され、活動の規律と自由さ、豊かさが保証されている。

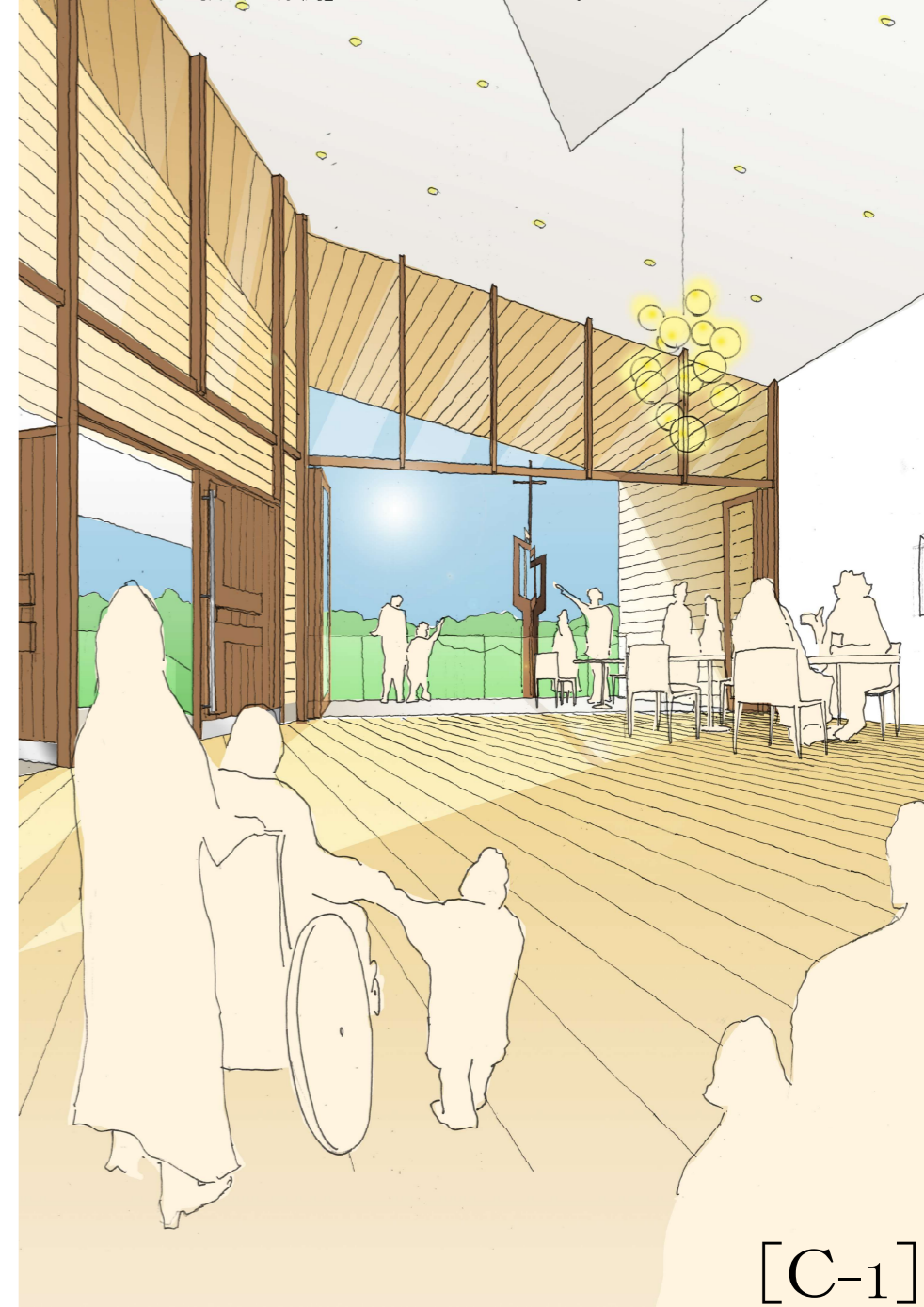
それはカトリック百合ヶ丘教会の「開かれた未来像」を示唆する概念でもある。

<聖堂の空間構成ダイアグラム図>

聖堂。公園の緑に開き、明るい光が差し、高天井で開放的な内部空間。温かく静謐な「集いと祈りの場」。

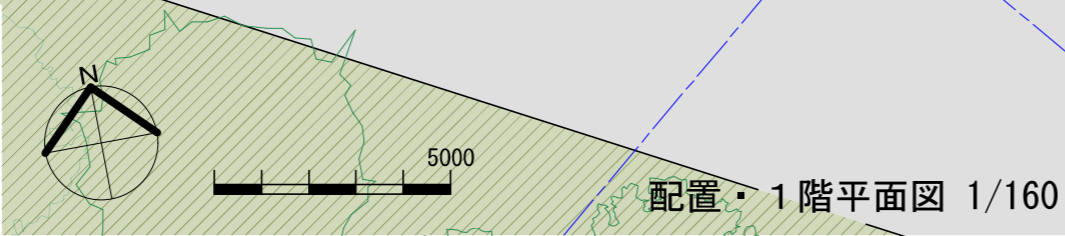
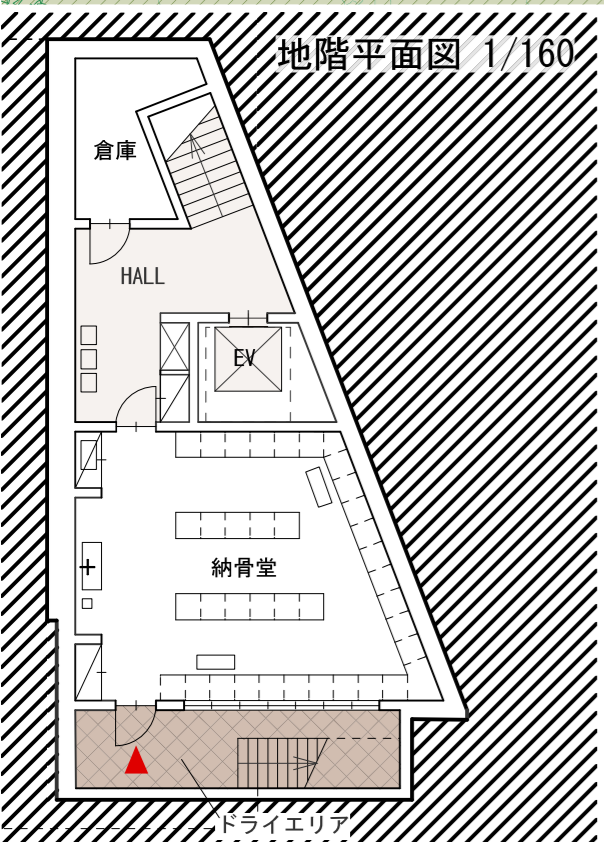
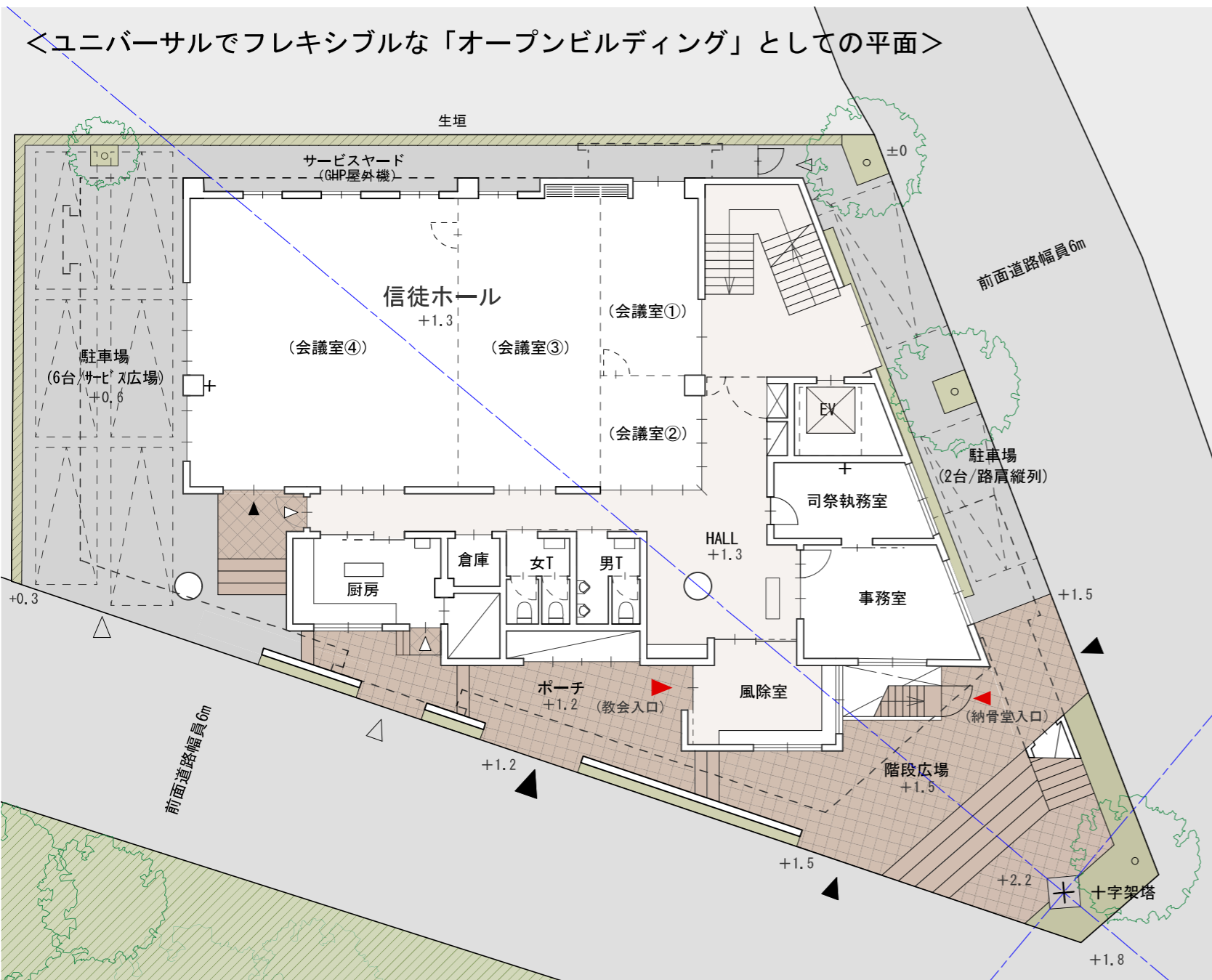


ガラススクリーンを開放し、バルコニー越しに十字架の塔、弘法松公園や街を展望できる「教会の縁側」としての聖堂ロビー。

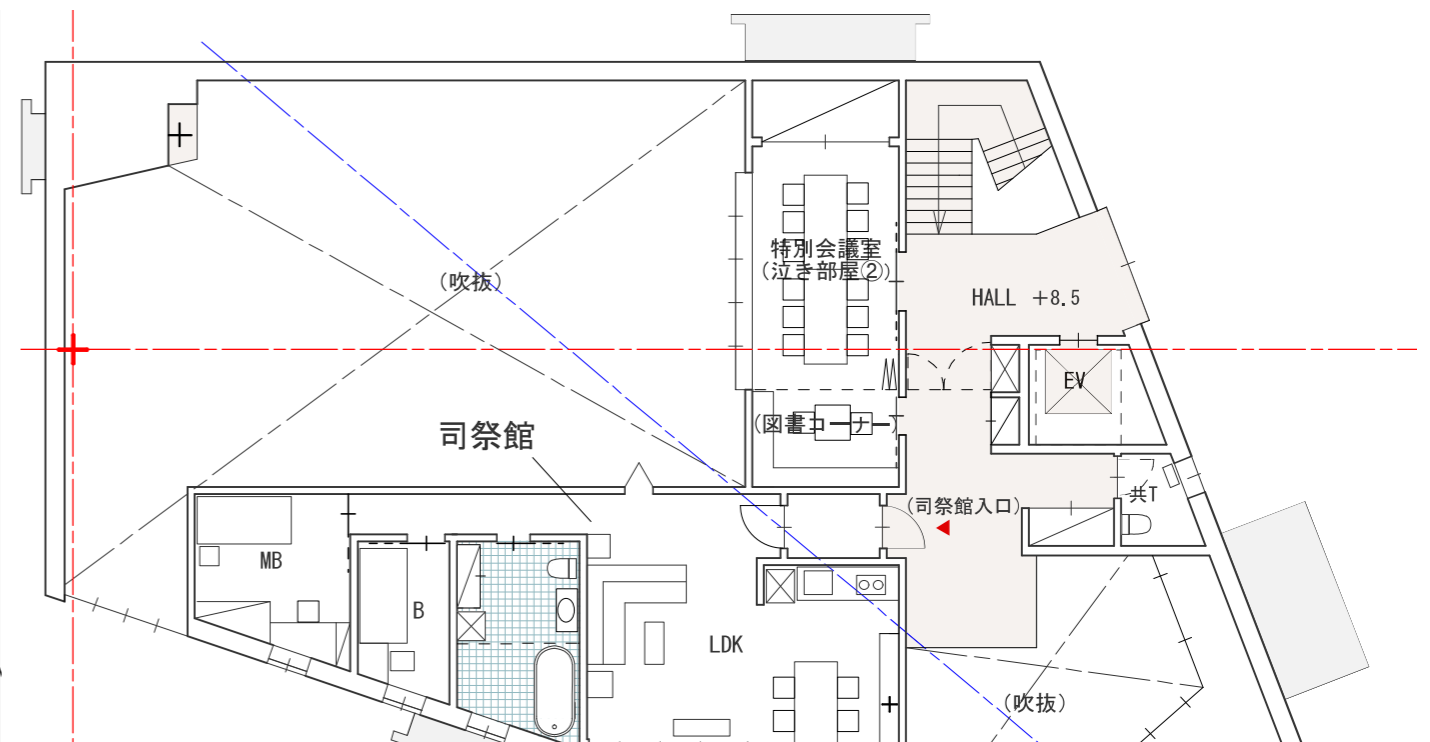


[C-1]

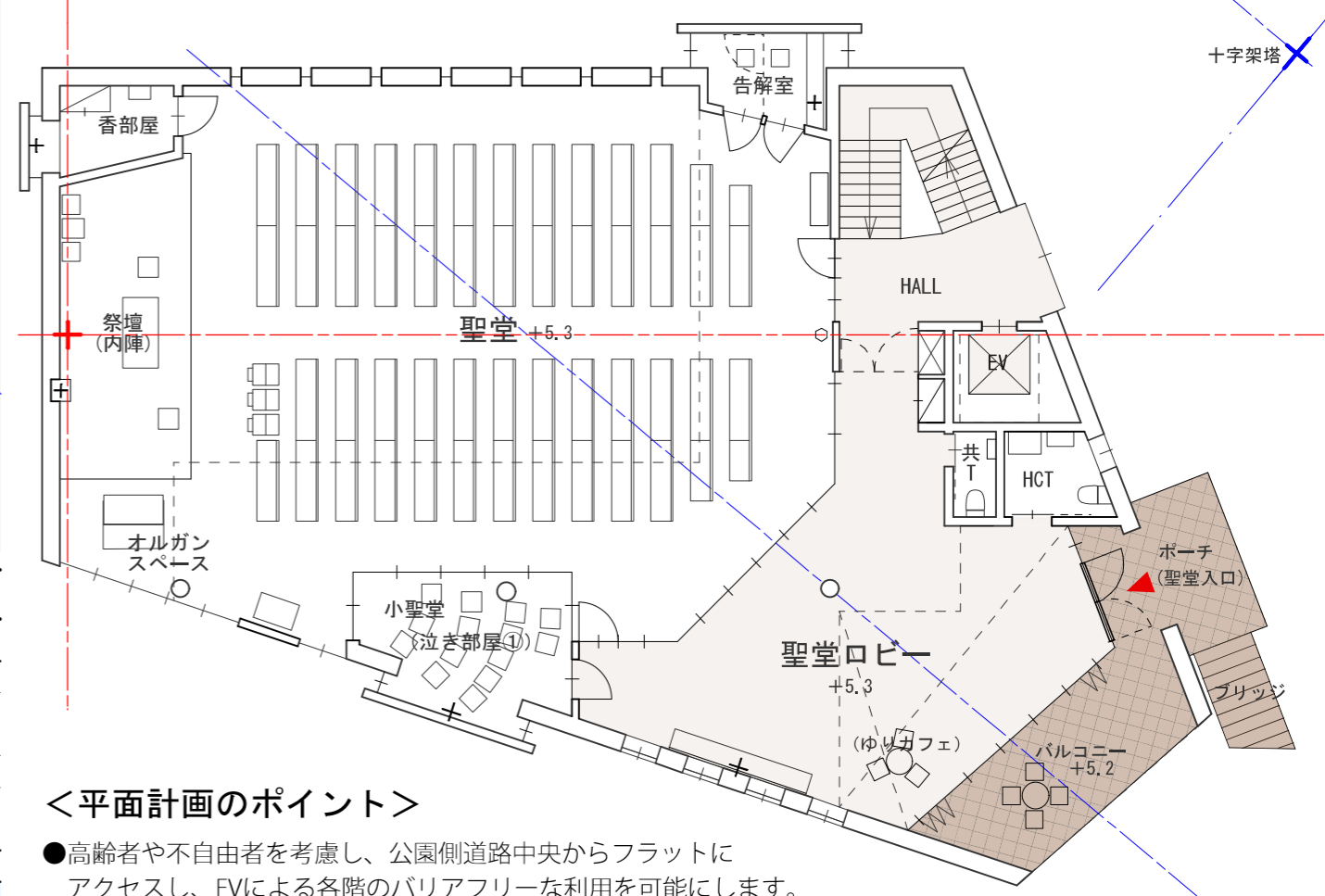
＜ユニバーサルでフレキシブルな「オープンビルディング」としての平面＞



室別面積表 (㎡)		
1階	2階	3階
風除室	聖堂	司祭館
事務室	(小聖堂 14.13)	特別会議室
司祭執務室	(告解室 6.96)	(図書コーナー6.95)
信徒ホール	(香部屋 6.68)	共T
(会議室① 22.39)	聖堂ロビー	廊下/階段
(会議室② 13.20)	共T/HCT	収納/EV
(会議室③ 33.11)	HALL/階段/EV	小計
(会議室④ 61.92)		地上階合計
厨房		地下1階
男T/女T		納骨堂
HALL/EV/収納		HALL/階段
倉庫/廊下/階段		収納/EV
小計	小計	小計
274.50	339.04	77.80
		合計
		856.06



3階平面図 1/160

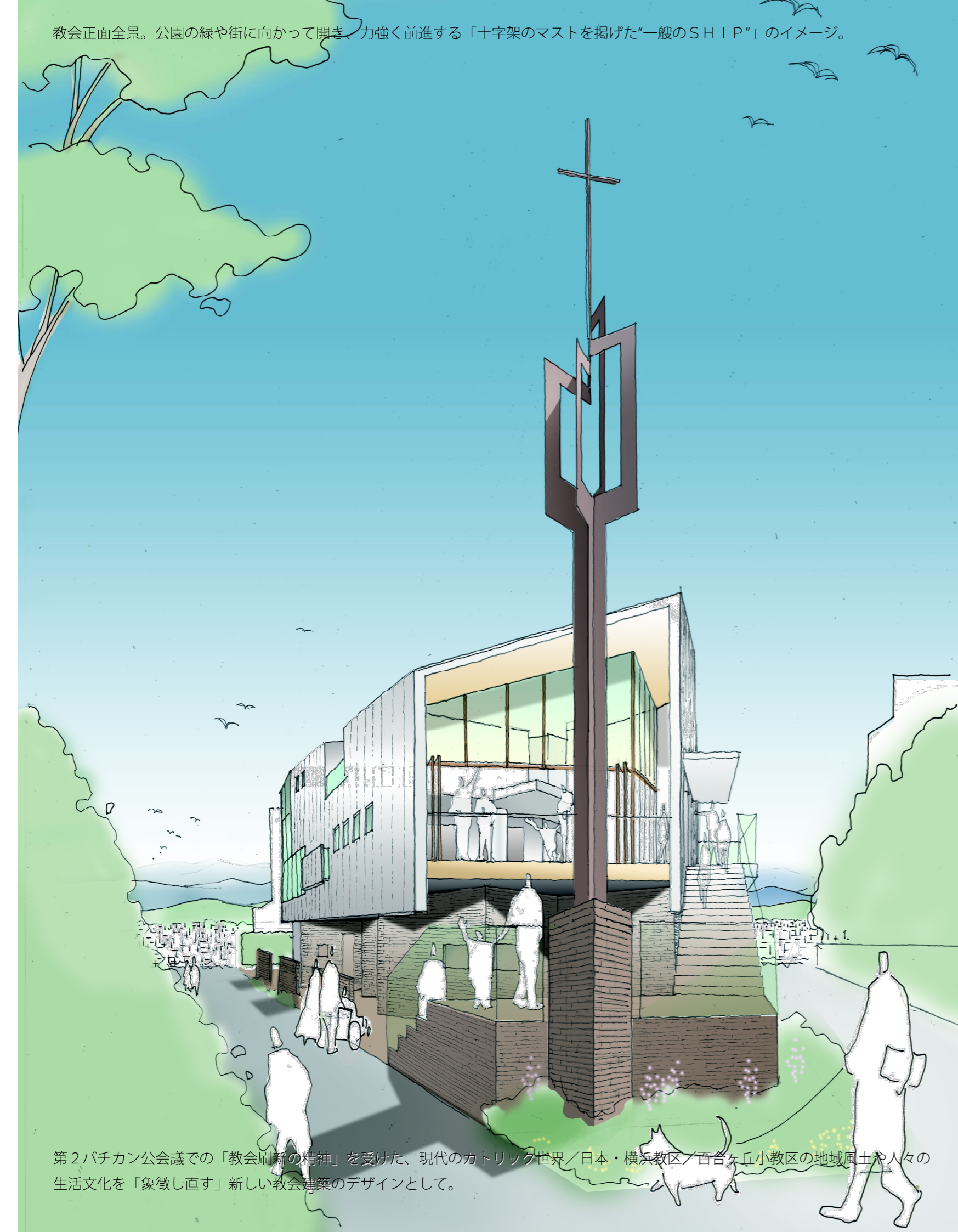


2階平面図 1/160

＜平面計画のポイント＞

- 高齢者や不自由者を考慮し、公園側道路中央からフラットにアクセスし、EVによる各階のバリアフリーな利用を可能にします。
2面道路角地を「十字架・塔が移設された階段状の新しい広場」とし、街に開き、2階聖堂への入退堂正面入口にします。
- 大きな室面積の信徒ホールと聖堂を、1・2階の北西側奥に配置します。
2階は聖堂から聖堂ロビー、バルコニーへと同心円的に開かれています。
- 多くの部屋の間仕切りを極力「透明ガラスのスライディングドア」とし、「開閉による活動の独立性とフリーアドレス性の確保」を可能にします。

教会正面全景。公園の緑や街に向かって開き、力強く前進する「十字架のマストを掲げた“一艘のSHIP”」のイメージ。



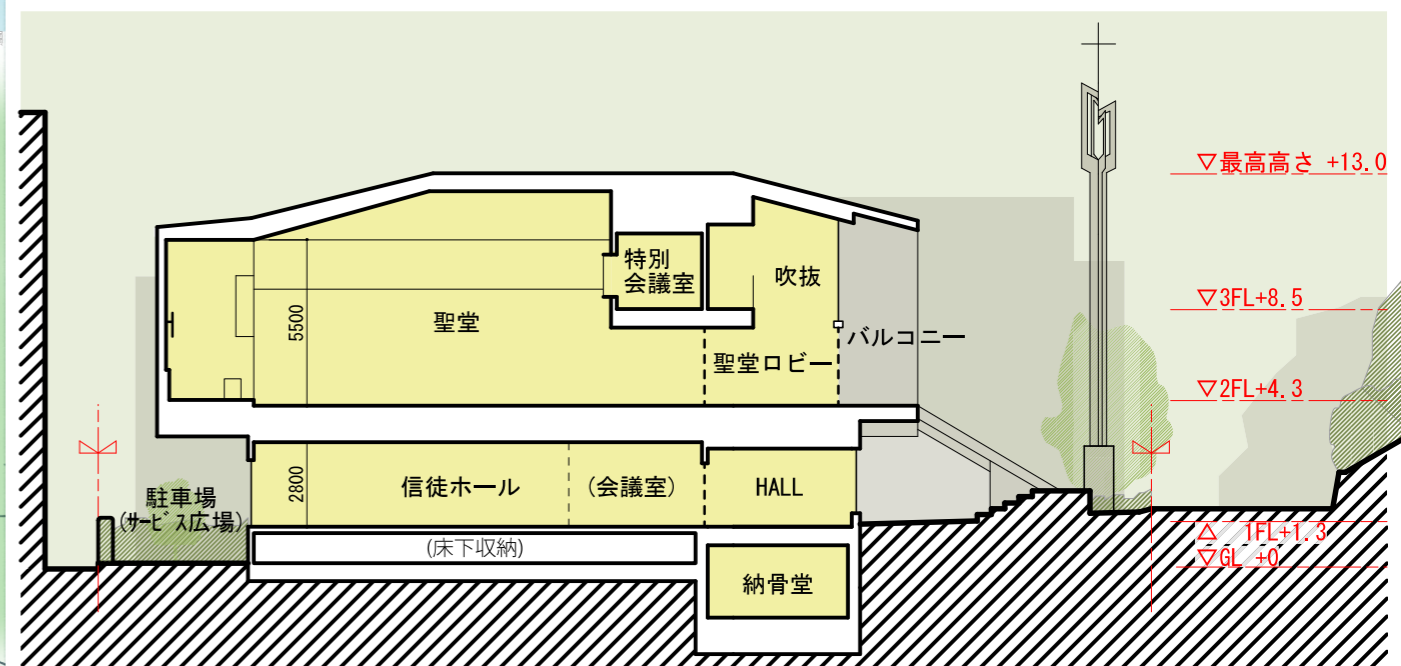
第2バチカン公会議での「教会刷新の精神」を受けた、現代のカトリック世界／日本・横浜教区／百合ヶ丘小教区の地域風土や人々の生活文化を「象徴し直す」新しい教会建築のデザインとして。



南(公園側)立面図 1/250



北東立面図 1/250

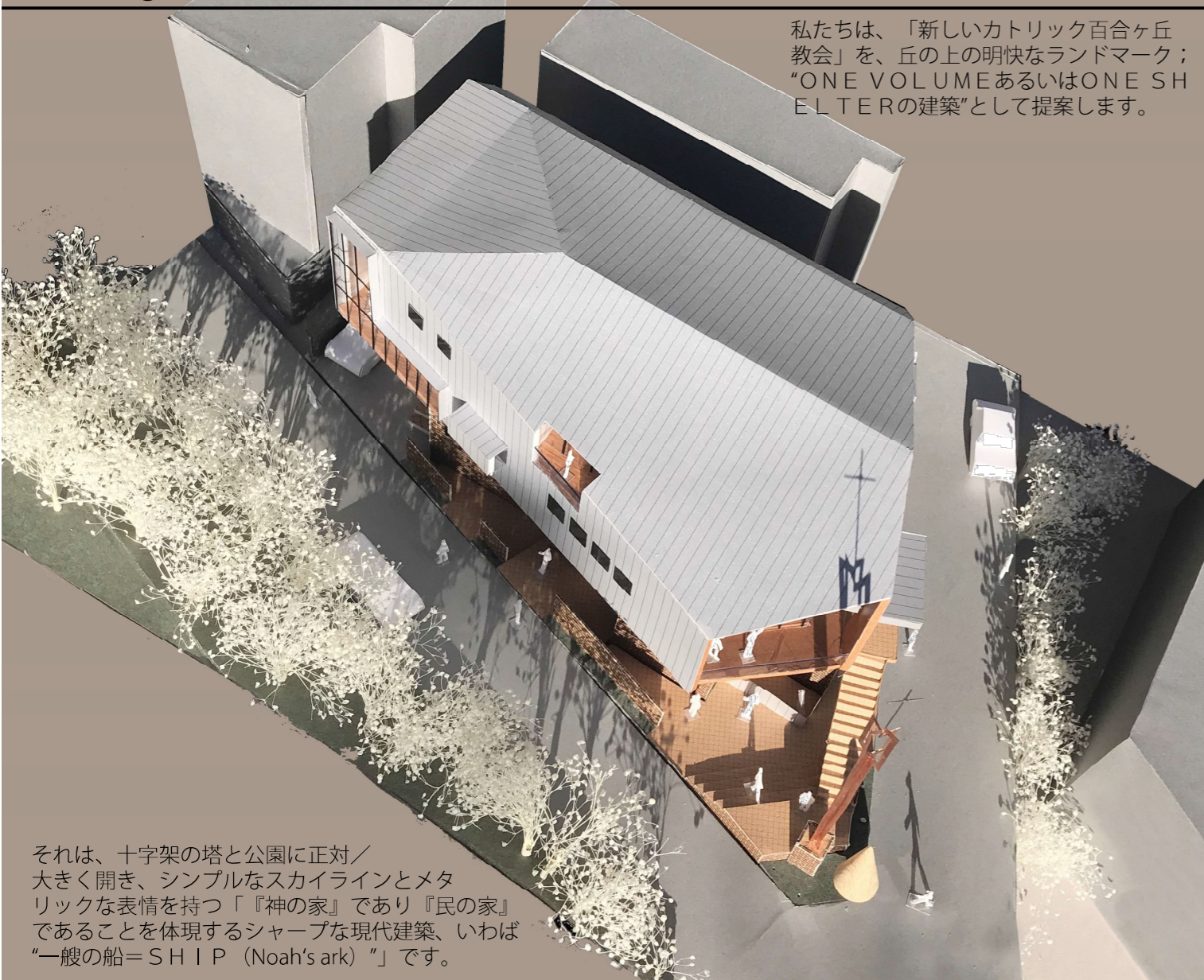


断面図 1/250

<断面計画／外装デザインのポイント>

- 既存建物解体後の支持地盤面（地山）に新しい建物を直接基礎で設置します。各階階高は十分に取り、しかも全体を「周辺への影響を抑えた最小ボリューム」にまとめます。
- 新教会の建物は、開放的な街角のロケーションや公園の豊かな緑に映えるメタリックで未来的な「輝かしい外観の印象」をもっています。
- 教会の中心に十分に守られた聖堂空間がありますが、ガラス張りの聖堂ロビーを通じて、公園や街に開き、親しみやすく温かい「人々の交わりやくつろぎの場」を提供しています。

建築計画① — ONE VOLUMEの建築



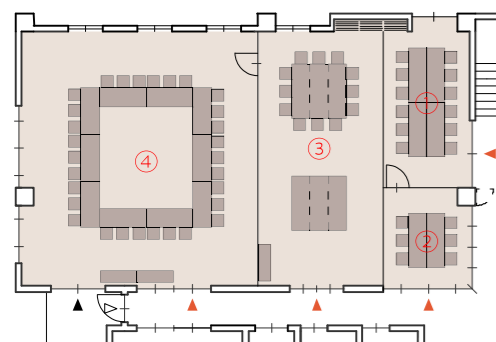
私たちは、「新しいカトリック百合ヶ丘教会」を、丘の上の明快なランドマーク；“ONE VOLUMEあるいはONE SH ELTERの建築”として提案します。

それは、十字架の塔と公園に正対／大きく開き、シンプルなスカイラインとメタリックな表情を持つ「『神の家』であり『民の家』であることを体現するシャープな現代建築、いわば“一艘の船=SHIP (Noah's ark)”です。



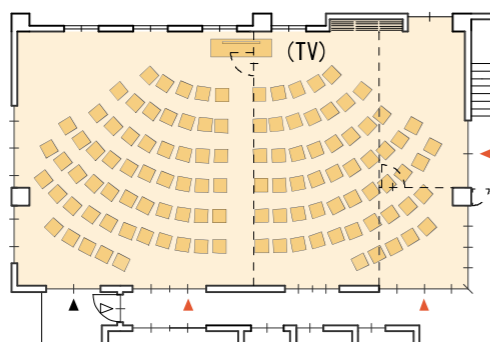
建築計画② — 信徒ホールの多様なレイアウト

A. 会議／作業



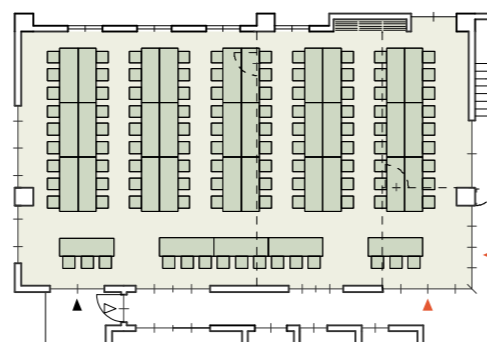
*80名/室、30・24・12・6名/4室など

B. ミサ・集会／講演／パーティー



*100~150名/室

C. 着席会食



*100~120席/室

構造計画 — SRC+S造／直接基礎

①構造上の特徴

レベル差の大きい敷地であることから、1階（・地階）を鉄筋コンクリート構造とし、2・3階の大きな空間を覆う架構を軽い鉄骨構造とします。建物全体の重要度係数の設定を高くし、強固で耐震性能の高い建物を目指します。

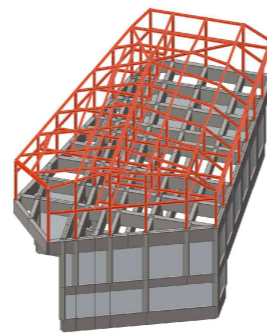
②上部構造

屋根、3階、2階立ち上りを鉄骨構造とし、屋根梁は3次元立体トラスとすることにより軽量化を図ります。壁内にブレース（筋交い）を適宜配置することにより地震や台風などによる水平方向の力に対応します。地階、1階、2階床は耐震壁付き鉄筋コンクリート造（RC造）とします。また、柱は2階立ち上がりからの鉄骨柱を内包した鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）を想定し、地震時応力に対応する強固な柱を目指します。

③下部構造

既存建物は地盤調査資料から、GL-1m付近の関東ローム層を支持地盤と考えています。この地盤の長期地耐力は平板載荷試験により約105kN/m²（10.7t/m²）あることが地盤資料より確認できます。

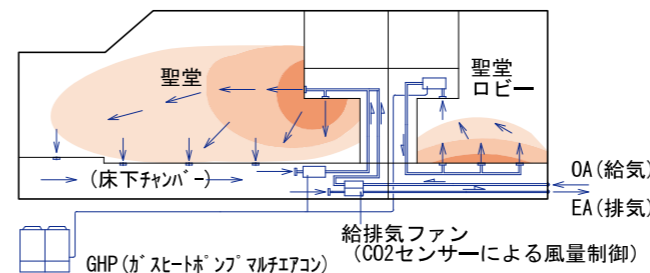
基礎構造について：既存建物はGL-1.3mの基礎深さの直接基礎としていますが、そこで解体時の整地作業などを考慮して「GL-1.5mを支持地盤とする直接基礎（べた基礎）」を提案します。（今回提案の建物重量は、試算から平均75kN/m²（7.65t/m²）程度であり、支持地盤の地耐力の71%程度、十分支持可能です。）



設備計画 — GHP床下チャンバー方式エアコン

①熱源計画

a.空調熱源はガスと電気のベストミックスで構成します。低圧電力弾力運用とし、建物の電力消費抑制と、キュービクルを必要としない運転管理の簡易化を図ります。
b.使用頻度の低い大空間である聖堂・聖堂ロビーは、立ち上がり性能が良く、低外気温時の暖房に強いガスエンジンヒートポンプエアコン（GHP）その他諸室と司祭館は電気方式エアコン（EHP）を用途に合わせて分散配置します。



②空調方式

a.聖堂内は、壁吹出しと2重床内への床吸込みとし、床近辺の快適性を確保し、「静謐で穏やかな『祈りの場』」に相応しい室内温熱環境を目指します。人員の変動する聖堂は、室内炭酸ガス自動調節による、換気熱負荷／動力を節減します。
b.聖堂ロビーは、床外周からの吹出し、2階天井面からの吸込みとすることで、外周部の熱さ寒さの緩和を図ります。

③その他

全館LED照明（無線コントロール調光）の使用、節水型衛生器具の採用、金属板屋根・外壁の十分な断熱性能の確保と太陽光エネルギー活用を目指します。

建築概要

所在地	神奈川県川崎市麻生区百合丘2-1-8
用途地域	第一種中高層住居専用地域
その他	第二高度地区、準防火地域
用途	教会
構造種別	SRC+S造 地下1階地上3階建て
敷地面積	529.57m ²
建築面積	361.13m ² （建蔽率68.19%/70%）
延床面積	856.06m ² （容積率161.65%/200%）
高さ	GL+13.0m(十字架塔GL+18m)

主な外部仕上げ

1. 屋根	SGLガルバリウム鋼板 t=0.4 立ハゼ葺き
2. 外壁 a. 上部	同上
b. 下部	珪酸質ボーダータイル張/コンクリート打放し
3. 外部床	コンクリート舗装 珪酸質ボーダータイル張
4. 外部建具	アルミニウム製建具 一部木製気密建具
5. 外構工事	十字架塔（補修移設）/外階段/ブリッジ フェンス+生垣/高木4本+灌木植込

主な内部仕上げ

室名	床	壁	天井
信徒ホール 聖堂ロビー 階段・廊下	織目模様ビニル床 シート張t=3.2	しっくい塗/ クロス張	岩綿吸音板張/ クロス張
聖堂/小聖堂 告解室/香部屋	天然木無垢フロー リング張t=20 OF	しっくい塗/ 化粧合板張 OF	しっくい塗/有 孔化粧合板張
事務室/司祭室 会議室他居室	タイルカーペット 敷	クロス張	クロス張
トイレ/倉庫他	ビニル床シート張	クロス張	クロス張
厨房	ビニル床シート張	吹付タイル	ケイカル板 EP

計画諸元比較表

	現況	改築試案	<提案>
1. 延床面積(m ²)	669	810(内地階51)	856(内地階77)
2. 聖堂面積(m ²)	145 (* 玄関ホール77)	200	231 (* 聖堂比 - 66)
会衆席数(席)	207(0.70m ² /席)	250(0.8m ² /席)	200(1.15m ² /席)
聖堂気積(m ³)	約450(2.2m ³ /席)	—	約1140(5.7m ³ /席)
3. 信徒ホール面積(m ²)	132	165	130
4. 地下室(m ²)	—	38(倉庫)	77(納骨堂/倉庫)
5. トイレ数	男性用 大2小1 女性用 大3 車椅子用 1	男性用 大2小2 女性用 大4 車椅子用 1	男性用 大1小2 女性用 大2 共用 大2 車椅子用 1
	7	9	8
6. 構造規模	S造地上3階	地下1階地上3階	SRC+S造 地下1階地上3階
7. 高さ(m)	10.5 (十字架塔16.5)	—	13.0 (十字架塔18.0)
8. 駐車台数(台)	8	10?	8

工事費概算見積

	(千円/税込)
1. ボーリング・測量費	1,000
2. 設計・許可申請・工事監理費	22,000
3. 解体工事費	(約30千円/坪) 7,000
4. 本体工事費	地上階のみとして(約950千円/坪)* 225,000
5. 外構・植栽費	5,000
合計	260,000

* 地下階を含む場合 約860千円/坪